



公益社団法人群馬県医師会

保育サポーターバンク通信



利用医師の声



私が娘を出産した年にちょうどサポーターバンクが設立されました。そこからずっとお世話になっており、おかげさまで娘も10才になりました。私は前橋市で開業医をしております。実家も前橋にあり、母も元気にしておりますが、茶道教室を主催したりして多忙にしていることから、日々あまり出て来ず、その母からサポーターバンクを教わったのがきっかけでした。

この10年間、私の開業医生活はサポーターバンク無しでは考えられないものでした。子どもの体調が悪くなったとき、お迎えや預かりをいつも快く引き受けて下さいました。子どもはひとりっ子なので、子どもが成長するに当たり体験することはいつも自分にとって初めてのことばかりでした。あたたかしている、サポーターさんご自身の体験なども踏まえてアドバイスをいただいたりもします。私にとってサポーターさんは、単に送迎をお願いする方では無く、一緒に子育てに向き合って下さる先生でもあり、同志のような存在でもあります。

娘も大きくなって体力もついてきて、体調を崩すことは少なくなりましたが、今は習い事の送迎でほぼ連日お世話になっております。大事な我が子を安心してお任せ出来る保育サポーター制度を利用させて頂いたことが、今後地域で少しでもお役に立てるように頑張りたいと思います。(M・Iさん)

私が保育サポーターさんにお世話になり始めたのは、今から9年前のことになります。実家を離れて、医師の夫と3人の子供と暮らし始めたころのことでした。

当初、パートとして勤務を再開し勤務時間は短かったものの、上の子たちの小学生の習い事に赤ちゃんを連れていけないため、週1回夜に来ていただいたのが最初でした。以降、私の勤務形態が変わるにつれて、来ていただく時間や曜日は変わりましたが、子供たちの日々の生活をずっと支えていただいています。下の子が小さいときには児童館に連れて行ってもらうたり、大好きなかけを一緒に捕まえてもらったり、上の子とはお菓子や料理を作るのを手伝ってもらったり、塾の送迎をしてもらったりと親以外の頼れる大人として関わってもらっています。

今では、私も常勤として働くようになりました。親の心に余裕がないと子供に親のイライラが伝染してしまいますが、塾の迎えに間に合わせるために焦って運転しなくて済む、働くことによって子供たちに我慢をさせなくて済むなど、子供だけでなく親の心の余裕も作っていただいています。いつも本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願い致します。(H・Hさん)

サポーターさんからの声



現在、私は、このサポーターの仕事させて戴いてから、10年余りに成ります。

先日、以前サポーターでその頃、幼稚園の年長さんだった子が、突然訪ねてきてくれました。すぐうれしかったです。そのお子様ももう高校1年生とのこと。あれから10年経つてからも忘れず覚えていて、訪ねて来てくれたことに、とても感謝しました。そのことは、私自身の励みにもなっています。そして今現在も、3人の姉妹の幼稚園・学童への送り迎えをさせて頂いております。ママから「サポーターさんがいなかったら、仕事をすることが考えられないくらい助かってます」と言われると、「よかった」と思う程です。

今では、主人も研修を受け、私を助けてくれています。これからの人生を楽しみながら皆様のお役に立てていけたらと思っています。(S・Iさん)



サポート風景

この事業が発足されてから携わり、たくさんのお子さんたちと触れ合ってきました。事例を挙げたいと思います。

①Aさん
年中から平日の幼稚園のお迎え、成長するにつれて塾の送迎。病児での預かりや親御さんの都合による夜の預かりをしました。また長期休み中の一日預かりではドリルや絵、読書感想文の宿題と一緒にしたりして、頑張った後には非日常体験に出かけたりしています。そんな時や預かりのサポーターは様子が分かるように写真など撮らせていただき添付しています。何をしても控えめなお嬢さんが、今ではとても明朗活発で心身ともに成長されました。

②Dさん一家
ご出産されたので、ご兄弟を一か月幼稚園に朝の送り夕方のお迎えをさせていただきました。その間、保育参加がありママの代わりに参加もしました。その間、保育参加がありママの代わりに参加もしました。また、下のお子さんがひどい高熱でママが受診の間は、「ご兄弟のお預かりをしたりしました。その他にも保育園児の急な発熱の呼び出しや高校生の遅い時間の塾の送迎など、依頼内容は多岐に渡ります。



サポート風景



保育サポーターバンク 設立10周年に寄せて
群馬県医師会 会長 須藤英仁

群馬県医師会保育サポーターバンクが、協力をいただいていたサポーターの皆さん、設立当時から担当している今泉理事や事務局の努力により10周年を迎えることができました。事業の主権者として大きな喜びです。過去10年の通信を読み返してみると、駒井和子先生、山田那子先生をはじめ、多くの女性医師の皆さんが本当に苦勞され子育てをされてきたことに頭が下がる思いです。最近ではパートナーである男性医師も育児休暇を取るようになったことにも時代の変化を感じます。



医師の働きやすい環境づくりに向けて
群馬県健康福祉部医務課 医師確保対策室 室長 窪田智佳子

地域医療を支える医師の確保は県の重要課題の一つであり、中でも若手・中堅医師が安心して働き続けるためには、保育や子育て支援の充実が重要と認識しております。こうした課題に、群馬県医師会はいち早く取り組まれ、10年前に女性医師を支援する画期的な取組として「保育サポーターバンク」を設置し、年々実績を伸ばしてこられました。多くの女性医師、

部分がありません。幼稚園に行くのが嫌で仕方なかったこと、照れ屋で親戚が来る時の背中に隠れていたこと(今では考えられませんが...)、源義経が心のヒーローで平清盛、源頼朝が天敵であったこと、等々。子どもってそう変わっていかないと思えます。変わったのは情報過多の大人です。目の前の子育てに集中するだけでなく、子ども時代を思い出し、わが子の心の内を想像することも大事ではないでしょうか。決して誇れない自分の子育てを顧みて唯一お勧めできる親の心の持ち方です。

保育サポーターバンク関係者の皆さん、これから子どもたちの心に思いを馳せ成長を見守っていただきたいと思えます。最も大事なことは労働力確保ではありません。子どもたちの成長です。今後も保育サポーターバンクが、時代のニーズに合わせ健全な発展を遂げますことを心より祈念しております。

子育て医師のニーズにきめ細かく対応し、医師の就労継続の大きな支えとなっていたいただいております。事業の運営に携わる皆様の御尽力に心から感謝申し上げます。

医師の働き方改革や男性の育児参加促進など、子育て医師を巡る環境や意識は変わりつつあります。医師の働きやすい環境整備がより一層求められる中で、育児と仕事の両立を支援する「保育サポーターバンク」という仕組みがあることは、本県医療の魅力の一つであり、今後も医師確保に大きく寄与されるものと考えています。

より多くの医師の皆様へ、この事業を利用していただき、安心して医療現場で活躍いただけるよう、事業のますますの充実を期待しております。

INFORMATION

活動報告

月日	場所	内容
2021年11月14日(日)	群馬県医師会 大ホール	第20回保育サポーター研修会
2022年11月6日(日)	群馬県医師会 大ホール	第21回保育サポーター研修会

助成制度の紹介

- 1. 子育て支援助成制度
利用医師に利用料金の一部を助成します。
- 2. チャイルド(ジュニア)シートの貸与
保育サポーターにチャイルド(ジュニア)シートを貸与します。
- 3. インフルエンザ予防接種料金の助成
保育サポーターにインフルエンザ予防接種料金の一部を助成します。
- 4. 緊急時のタクシー料金助成
サポート中に緊急でタクシーを利用した場合に料金を助成します。

【保育サポーターバンク登録人数】

(2023年2月末日現在)

医師/250名 保育サポーター/253名

【保育サポーターバンク利用状況】

(2023年2月)

利用医師/50人 総利用時間/1453.5時間

保育サポーター募集中

保育サポーターバンクでは、県内子育て医師をサポートして下さる保育サポーターを募集しております。お知り合いの方へ保育サポーターバンクを紹介していただけると大変ありがたいです。子育て医師が離職せず働き続けることで、医師不足解消を目指します。ぜひご理解とご協力をお願いいたします。詳細はホームページをご覧ください。下記お問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。

群馬県医師会 保育サポーターバンク

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町1-7-4
TEL.080-1115-4176(相談員直通)月~金曜日(祝日を除く)10:00~16:00
FAX.027-231-7667(群馬県医師会事務局)
E-mail: hoiku@mail.gunma.med.or.jp

お問い合わせ

編集後記

設立されて10年が経過し、群馬県の保育サポーターバンクは、今や全国に誇れる事業となりました。これも多くの関係各位皆様のおかげと深く感謝いたします。特に、群馬の医療の充実のために、親身になって熱心に活動して下さるサポーターの皆様には頭が下がる思いで一杯です。今後とも本バンクの運営に、ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

群馬県医師会 担当理事 今泉 友一

ホームページ <http://www.gunma.med.or.jp/hoiku/>

群馬県医師会保育サポーターバンク

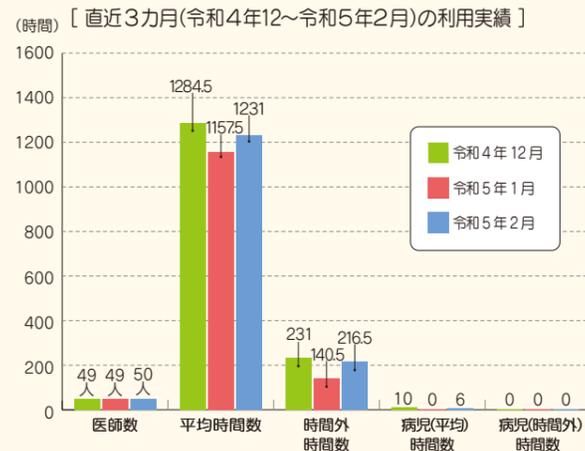


保育サポーターバンクの利用実績

平成24年に保育サポーターバンクが設立されてから、令和5年2月までの、サポーターバンクを利用した医師の月平均人数ならびに、平時(7時~19時)や時間外、病児保育のサポート利用時間一覧表(上)と、利用医師の月平均人数+サポート総利用時間を表したグラフ(下)を下記に示しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大時に、一時的に利用が減少したこともありましたが、概ね右肩上がりで推移しております。

年度	月平均利用医師人数	平時利用時間	時間外利用時間	平時病児利用時間	時間外病児利用時間	総利用時間
H24	10	918.5	307	209.5	3.5	1438.5
H25	25	4623.5	923.5	366	11.5	5924.5
H26	34	7892	1255.5	724	6	9877.5
H27	36.5	10970	1440.5	596	8	13014.5
H28	37	10647.5	1554.5	305	2.5	12509.5
H29	50.5	15319	2001.5	347.5	7.5	17675.5
H30	56.5	15244.5	2397	644	25.5	18311
R1	55	14325.5	2250.5	390.5	9.5	16976
R2	47.5	14746.5	2105.5	61	0	16913
R3	55.7	17553	2938.5	414	1	20906
R4	52.5	14981.5	1812	132	0	16925.5



群馬県医師会 保育サポーターバンクのあゆみ

群馬県医師会 保育サポーターバンクは、令和4年に設立10周年を迎えました。ご関係の皆様へ感謝の意を込めて、この10年間を振り返ってみます。

令和4年(2022年)	令和3年(2021年)	令和2年(2020年)	令和元年(2019年)	平成30年(2018年)	平成29年(2017年)	平成28年(2016年)	平成27年(2015年)	平成26年(2014年)	平成25年(2013年)	平成24年(2012年)	年												
5月	7月	3月	11月	10月	10月	11月	10月	6月	10月	3月	10月	8月	5月	4月	2月	7月	9月	1月	6月	5月	5月	1月	月
保育サポーターバンク設立10周年	1カ月の総利用時間が初めて2000時間を超える	登録医師の人数が200人を超える 新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し始める	「ほめて育てる」コミュニケーション・トレーニング 保育サポーター資質向上研修開催	保育サポーターの登録人数が200人を超える 「調理講習会」	ぐんま輝く女性支援賞受賞 保育サポーター資質向上研修開催	厚生労働省広報紙「厚生労働」にて 保育サポーターバンク事業が紹介される 「子どもの食育や離乳食」	第1回保育サポーター意見交換会開催 保育サポーター資質向上研修開催 「救命救急講習会」	登録医師の人数が100人を超える 保育サポーターの登録人数が100人を超える	第1回女性医師支援委員会開催 1カ月の総利用時間が初めて1000時間を超える 日本女医会第60回定時総会講演会にて 保育サポーターバンクの成果発表(松山相談員より)	第1回保育サポーター研修会開催(参加者27名) NHK「ほっとぐんま」にて事業内容が紹介される	群馬県医師会保育サポーターバンク設立(登録医師2人) 第1回保育サポーターバンク運営委員会開催(準備委員会)	出来事											
島田相談員	能登相談員	能登相談員	能登相談員	能登相談員	能登相談員	本多相談員	本多相談員	本多相談員	松山相談員	松山相談員	松山相談員	相談員											

利用医師・子ども・サポーターについてのデータ(2022年4月1日~9月30日現在)

